

大会展望

新人戦では、上位3校が2勝1敗で並ぶという大混戦。富田高が見事に初の岐阜県チャンピオンとなった。近年では、H25年度以外全て、新人を制したチームが全国総体への出場を決めているだけに、本命は富田高か。対抗は、新人戦で惜しくも2位に甘んじた美濃加茂高だ。近年、全国大会がかかった大会では圧倒的な強さを見せているだけに今大会も期待できる。さらに、同じく2勝しながらも3位に甘んじた岐阜農林にも期待したい。また、大垣工高などのシード校の活躍と共に、各地区を上位で勝ち抜いてきたチームが、各ブロックでの波乱を巻き起こす事ができるか。今年も男子の覇権争いから目が離せない。

上位校がひしめく激戦ブロック。

初のディフェンディングチームとしてのプレッシャーもある富田高にとっては油断ならない試合が待っている。東濃地区2位の中津川工高、西濃地区1位の大垣日大高、中濃地区2位の加茂高の勝者とブロック決勝で戦うことになる。持ち前のスピードで勢いのあるプレイで、初の全国大会を目指してほしい。

波乱の予感ブロック。

虎視眈々と上位3校を飲み込むチャンスを狙っているに違いない大垣工高。しかし、同じく一気に頂点の座まで、上り詰めようと高山西高が狙っている。波乱を巻き起こす事になりそうだ。ブロック決勝は見逃せない。また、岐阜地区2位の県岐阜商高、西濃地区2位の大垣商高の活躍にも期待したい。

H28年度東海新人決勝。女王桜花高（愛知）を大差で退けた戦いぶりは記憶に新しい。いよいよ全国3冠（インターハイ、国体、ウィンターカップ）にむけての戦いがスタートする。対抗は、県岐阜商高だ。全国での経験値はチーム力として着実に受け継がれている。また、第3シード高山西高も着実に力を付けてきている。地の利を生かし、全国のトップクラスのチームにどこまで食い下がることのできるのか、活躍に期待したい。第4シードの土岐商高をはじめ、各ブロックでシード校を中心に白熱した試合が行われるだろう。そして、東海大会出場をかけた激しい戦いも予想される。地区大会で悔しい思いを味わってきた実力あるチームがどう絡んでくるか見逃せない。

冠への始まり。

昨年3度の準優勝。その悔し涙は下級生に引き継がれ、いよいよ全国での偉業を成し遂げる時がきた。西濃地区1位の大垣北高や激戦の岐阜地区を勝ち上がった3位の各務原高が、全国のプレイを肌で感じながら女王に果敢に挑んでほしい。

予測不能ブロック。

第4シードの土岐商高をはじめ、第5シードの岐阜農林高。東濃地区1位の恵那高。中濃地区2位の東濃実高。飛騨地区2位の斐太高。岐阜地区4位の長良高。成績上位校がひしめく激戦ブロックとなった。どの試合も目が離せない。

同地区決戦ブロック。

岐阜農林高と同地区である岐阜総合高の一騎打ちとなりそうだ。新人戦地区大会での戦歴もないだけに、勝負の行方は分からない。ブロック決勝は見逃せない。また、岐阜地区3位の岐阜高の活躍にも期待したい。

混戦ブロック。

美濃加茂高が最有力であろう。しかし、このブロックには、東濃地区1位の土岐商高、中濃地区1位の可児工高、飛騨地区2位の斐太高がいる。簡単に勝ち上がるのは難しい。また、岐阜地区4位の長良高の活躍にも期待したい。

騎打ちになるか。

順当にいけば、高山西高と美濃加茂高がブロック決勝で戦うことになりそうだ。東濃地区2位の恵那農高と西濃地区2位の大垣日大高、東濃地区3位の中津商高がどこまで食い下がることのできるか。検討を期待したい。

県岐阜商高が最有力であろう。

2年連続で全国大会を経験し、チームとしての経験値は高まっているに違いない。挑むのは、飛騨地区1位の飛騨高山高。中濃地区3位の関商工高と激戦の岐阜地区を勝ち上がった岐阜総高だ。